

<註>

- 1 大阪控訴院の便箋がそえられ、大正5（1916）10月11日付けの新聞に包まれて保管されていた。「証拠品 6年 第1575 第214 福鎌検事 検1、2、3号 大正6年3月16日 第2 被告人（個人名）盗8」の記載があるという〔井口2004〕。
- 2 梅原は、「発掘事件が問題になった際、（被告の1人）から押収した出土品で、後に奈良国立博物館の有に帰した遺品のうちに見られる鏡1面」として、半円方形帯神獸鏡（裁4）の図版を報告書に掲載している。また、大正3年から5年にわたる城南から北和一带にかけての古墳の盗掘品が押収され、後に奈良国立博物館の藏品となったことに言及している。
- 3 『帝室博物館年報』（昭和12年）による情報と推測できるが、「1935頃」の発見とし、裁判所を「警察署」とするなど、誤認がある。おそらく口頭の説明を受けるなどしてこのような記述となったかと推察する。
- 4 石製品に記入された台帳番号は、原則として1個体につき1つの数字が与えられた通し番号である。ただし、裁19だけは例外で、紡錘車形石製品2点に対して同一番号が与えられている。このため、本稿では裁19（その1）、裁19（その2）と記述する。
- 5 重量は、台秤を使用し、5g単位で計測した。
- 6 石材は、鐘方・北山・南部・大野・村瀬で検討し、合意した結果を一覧表に記入した。ただし、多分に主観的であることは否定できない。特に、材質Ⅰ・Ⅲ・Ⅳは5人の意見がほぼ一致したが、材質Ⅱは合意形成が難しかった。このため、今後なお詳細な検討がなされることに期待したい。なお、今回の検討では、裁33の車輪石が材質Ⅱの典型かと思われた。
- 7 側面からみて環体部裏面を水平にして置いた線を基準とし、縦断面で内孔裏面下端と板状部裏面下端を結んだ線とがなす角度を目安として表記した。
- 8 板状部を水平に置いたときに笠状部上端の中心と内孔の中央部とを結ぶ線。この線の左への傾きが型式分類の1つの指標として着目されている〔北條1994〕。
- 9 石膏復元の重量を含む。
- 10 30 μ mのフィルター処理とは、「a、b、cの3つの計測点間において点aと点cを結ぶ直線と点bの距離が30 μ m以下である場合は、b点を消去する」という方法である。
- 11 本資料の3次元形状計測およびデータ処理について、高橋健太郎氏・増永光令氏のご協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

<引用・参考文献>

- 石田茂輔 1967 「日葉酢媛命御陵の資料について」『書陵部紀要』第19号、宮内庁書陵部、37-62頁（宮内庁書陵部陵墓課編1980『書陵部紀要所収陵墓関係論文集』に再録）
- 井口嘉晴 2004 「資料紹介 北和城南古墳出土品（奈良国立博物館蔵）」『鹿園雑集』奈良国立博物館研究紀要第6号、137-141頁
- 岩本 崇 2008 「三角縁神獸鏡の生産とその展開」『考古学雑誌』第92巻第3号、日本考古学会、1-50頁
- 上野祥史 2000 「神獸鏡の作鏡系譜とその盛衰」『史林』第83巻第4号、史学研究会、30-70頁
- 上野祥史 2007 「3世紀の神獸鏡生産」『中国考古学』第7号、日本中国考古学会、189-216頁
- 岡崎 敬 1978 『日本における古鏡 発見地名表 近畿地方Ⅲ』東アジアより見た日本古代墓制研究（58-59頁に掲載）
- 岡寺 良 1999 「石製品研究の新視点－材質・製作技法に着目した視点－」『考古学ジャーナル』No.453、ニュー・サイエンス社、24-27頁

- 岡村秀典 1999 『三角縁神獣鏡の時代』歴史ライブラリー66、吉川弘文館
- 小田木治太郎 2010 「鍬形石の類似品群について－東大寺山古墳出土品から－」『東大寺山古墳の研究－初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究－』東大寺山古墳研究会・天理大学・天理大学附属天理参考館、347-360頁
- 川西宏幸 1981 「前期畿内政権論」『史林』第64巻第5号、史学研究会、110-149頁（川西宏幸1988『古墳時代政治史序説』に改筆して収録）
- 蒲原宏行 1987 「石釧研究序説」『比較考古学試論』雄山閣出版、103-169頁
- 岸本直文 1989 「三角縁神獣鏡製作の工人群」『史林』第72巻第5号、史学研究会、1-43頁
- 岸本直文 1995 「三角縁神獣鏡の編年と前期古墳の新古」『展望考古学』考古学研究会40周年記念論集、考古学研究会、109-116頁
- 京都大学考古学研究室編 1989 「三角縁神獣鏡目録」『椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡』京都大学文学部博物館図録、75-78頁
- 京都大学考古学研究室 2000 「三角縁神獣鏡目録」『大古墳展 ヤマト王権と古墳の鏡』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・京都大学・東京新聞、248-254頁
- 京都府教育委員会編 1955 「山城に於ける古式古墳の調査」『京都府文化財調査報告』第21冊、1-80頁・図版第1-38
- 車崎正彦 1993 「龍鏡考」『翔古論集』久保哲三先生追悼記年論集、真陽社、130-163頁
- 小林行雄 1971 「三角縁神獣鏡の研究－型式分類編－」『京都大学文学部紀要』第13、京都大学文学部、96-170頁
- 櫻井久之 1991 「鍬形石の系譜と流通」『考古学雑誌』第77巻第2号、50-79頁
- 澤田秀実 1993 「三角縁神獣鏡の製作動向」『法政考古学』第19集、法政考古学会、17-37頁
- 下垣仁志 2003 「古墳時代前期倭製鏡の編年」『古文化談叢』第49集、九州古文化研究会、19-50頁
- 下垣仁志 2011a 『倭製鏡一覽』立命館大学考古学資料集第4冊、立命館大学考古学論集刊行会
- 下垣仁志 2011b 『古墳時代の王権構造』吉川弘文館
- 杉山晋作 1985 「特異な彫刻文のある石製腕飾」『古代探叢Ⅱ』早稲田大学考古学会創立35周年記念考古学論集、299-318頁
- 田中 琢 1979 『古鏡』日本の原始美術8、講談社
- 辻田淳一郎 2000 「龍鏡の生成・変容過程に関する再検討」『考古学研究』第46巻第4号、考古学研究会、55-75頁
- 辻田淳一郎 2007 『鏡と初期ヤマト政権』すいれん舎
- 富岡謙蔵 1916 「日本出土の支那古鏡」『史林』第1巻第4号、史学研究会、109-128頁
- 奈良県立橿原考古学研究所編 2005 『陵墓等関係文書目録－末永雅雄先生旧蔵資料集－』第1集（「裁判記録」225-251頁、解説290-294頁掲載）
- 奈良国立博物館編 1997 『奈良国立博物館の名宝－1世紀の軌跡－』（特別展図録）
- 林 正憲 2000 「古墳時代前期における倭鏡の製作」『考古学雑誌』第85巻第4号、日本考古学会、76-102頁
- 樋口隆康 1953 「中国古鏡銘の類別的研究」『東方学』第7輯、東方学会、1-14頁
- 福永伸哉 1991 「三角縁神獣鏡の系譜と性格」『考古学研究』第38巻第1号、考古学研究会、35-58頁
- 福永伸哉 1994 「三角縁神獣鏡の歴史的意義」『倭人と鏡 その2－3・4世紀の鏡と墳墓－』第36回埋蔵文化財研究集会、埋蔵文化財研究会、349-358頁
- 北條芳隆 1994 「鍬形石の型式学的研究」『考古学雑誌』第79巻第4号、日本考古学会、41-66頁

- 北條芳隆 2013 「腕輪形石製品」『古墳時代の考古学4 副葬品の型式と編年』同成社、160-177頁
- 三浦俊明 2005 「車輪石生産の展開」『待兼山考古学論集－都出比呂志先生退任記念－』大阪大学考古学研究室、501-518頁
- 森下章司 1991 「古墳時代仿製鏡の変遷とその特質」『史林』第74巻第6号、史学研究会、1-43頁
- 森下章司 2005 「前期古墳副葬品の組合せ」『考古学雑誌』第89巻第1号、日本考古学会、1-31頁
- 森下章司 2007 「腕輪形石製品」「鏡と石製品からみた紫金山古墳」『紫金山古墳の研究』－古墳時代前期における対外交渉の考古学的研究－平成14～16年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書、161-168頁・283-304頁

北和城南古墳出土品調査報告書

発行年月日：平成29年3月31日

発行：奈良国立博物館

〒630-8213 奈良市登大路町50番地

印刷：能登印刷株式会社

〒924-0013 白山市番匠町293番地